

# 中沢かつゆき 通 信

## 自民党鎌倉市会議員

<http://www.nakazawa.jimusho.jp>



自民党鎌倉市連合支部幹事長

市政に関するご要望、皆さまの声をお聞かせください！

## 2期目

4月21日の選挙で、2期目に当選させていただきました。皆様にご挨拶を申し上げるべきではございますが、公職選挙法により控えさせていただかなくてはなりません。しかし、2期目、1期目からの課題、そして新しい課題にしっかりと仕事をさせていただくことで、ご期待に応えさせていただきたいと思っております。

鎌倉市議会では、1期目の4年間所属しました総務常任委員会に今期も所属し、委員会を開催して総務常任委員会委員長を拝命しました。所管原局が多く、補正予算も審議する総務常任委員会は、議会改革の要となる委員会です。市民の皆さん、そして次代の鎌倉のための委員会運営を行ってまいります。

6月5日から始まった6月定例会では、12月

議会に引き続き教育委員会の責任者である教育委員長に答弁をいただきました。いじめは、政治、そして教育委員会が「許さない」という強いメッセージを出し続ける必要があります。教育委員会改革が求められる中、考えを伺いました。今年の10月には市長選挙があります。教育長人事で、学校現場を大混乱させた現市長の責任は大きいと考えています。また、ごみ問題、開発問題、現市長のコンプライアンス欠如問題など噴出しています。参議院選挙が7月行われますが、その後、市長選への対応は、しっかりと考えていかなくてはと思っています。

## 教育委員長、再度答弁

議会答弁は通常、常勤教育委員の教育長が行います。しかし、昨年10月から鎌倉市は教育長が不在。職務代理として教育部長が答弁を行っていますが、教育委員会としての答弁はできません。特に、いじめについては教育委員会の考えと取り組みを聞かなくてはなりませんので、昨年12月議会で、鎌倉市議会初の教育委員長答弁をお願いし、新聞各紙が取り上げていただきました。今春、教育委員長がいじめに対して、「いじめは許さない」と強いメッセージを出していただきました。入学式後、各学校で機会をとらえて保護者、児童・生徒にいじめはダメ、ということをお話していただいています。その取り組みに対しての、今後継続について質問。今後も、いじめは許さないということに取り組んでいきますとの答弁。さらに、教育再生実行会議が答申しているように、

教育委員会改革が求められている中、今後の鎌倉の教育委員会について伺いました。教育委員長からは、教育現場を把握し迅速に対応できるようにするとともに、軸足のしっかりとした子供を育て、タレントを伸ばしていくことが教育委員会の役割です。そして、生涯学習と文化財も所管している立場からは、世界遺産登録にならなかったのは残念ですが、世界で評価されたことを踏まえ、今後各部署と連携して、将来鎌倉を出ても、いつか子供たちが戻ってこられるような街にしていきたいと思っております、と答弁。

鎌倉の長い歴史で、最初で最後の議会答弁した教育委員長ですが、しっかりとした考えと行動力をお持ちなので、鎌倉の子供たちをお任せできると感じています。これからも、鎌倉の子供たちをお願いします。

## 教育長決まる

昨年10月から不在となっている鎌倉市教育長。教育委員会の責任者は「教育委員長」ですが、事務方の責任者は「教育長」です。議会で教育関係を答弁するのは、教育長です。教育長は、教育委員の中で互選されます。鎌倉市では、教育長を含む教育委員2名が欠員となっています。病気等でなく教育長が半年も不在ということは異常事態です。昨年9月議会から、市長に対して「早く教育長予定教育委員と教育委員の人事議案を提出してほしい」とお願いしてきました。しかし、12月定例会では人事議案が提出されず、臨時議会も開かれず、2月定例会開会まで提出されませんでした。2月定例会開会后、突然教育長人事議案の内示があり、人事議案が提出されましたが、人物として問題があると考え議案質問を行いましたら、市長が議案を取り下げ。その後、市民の方から同じ人物を「市長が6月に再提出すると話している」と伺い、緊急質問を行いましたら、議会無視の「答える必要はありません」。しかし、議会が閉会した途端、6月議会で

同じ人物を再提出すると記者会見。閉会中、総務常任委員会協議会を開き、市長に質問。6月議会で同じ人物を再提出すると明言。自民党国会議員の「推薦書」を使った猟官運動を行いながら。自民党議員である中沢が反対していると、「自民党は反対していますが、徹底的に戦います」と市議選で明言。「この方以外にはいません」とまで言っていました。市議選後、市長派が過半数を取れなくても、同人物を再提出すると明言。しかし、5月末になり突然鎌倉市立小学校現職校長を教育長に、と打診。なぜ、拘っていた人物でなく別の方を教育長にしたのか一切説明はありませんでした。

教育長人事を政争にした市長の責任は大きいです。教育現場、保護者、そして市民の皆さんが不安に思うような人物を教育長にしようと強行した市長は、責任を取ろうとしていません。

新教育長には、「政争にされてしまいました、鎌倉の子供たちの目線で、教育委員会をお願いします」とお願いしました。

## 中沢かつゆきの経歴

### 市長の政治姿勢

教育長人事議案を何としても議会承認したい、と市議会議員選では議会多数派構成のために8名の推薦候補者を擁立しました。2元代表制の地方議会において、露骨な選挙戦に対して、大きな疑問が上がりました。

市長の政治資金管理団体の支出が不透明、と質問を行いました。市長の資金管理団体は、市長の政治活動にのみ支出ができます。しかし、他候補や民間人の「猟官運動」に支出することは、できません。4月の市議会議員選前、市長の資金管理団体は候補予定者のチラシを作成し配布を行いました。この支出に対して、公職選挙法並びに政治資金規正法違反の疑いが明らかになりました。今後、司法判断を受けなくてはならない場面が出てくる可能性があります。

経歴：昭和41年6月生

群馬県立渋川高等学校卒業  
東京電機大学工学部情報科学科卒業  
スパライズ株式会社代表取締役  
大阪観光大学観光学研究所  
客員研究員  
鎌倉中央ロータリークラブ副会長  
材木座保育園保護者会会長  
にかいどう子どもの家父母会会長  
県議会議員中村省司秘書  
著書「安全な温泉・あぶない温泉」  
(草思社刊)  
鎌倉市議2期 総務常任委員長  
二階堂在住  
事務局：Tel 0467-61-0305  
Fax 0467-61-0315

## ほっと、一息：日頃の疲れを、温泉で癒してみませんか？

\* 中沢かつゆきは温泉コンサルタントでもあります \*



水上温泉：C-61「SLみなかみ」に高崎から乗って、渋川を過ぎて水上に。そこには、谷川岳が眼前に広がり、利根川に架かるいくつもの橋は、温泉情緒を醸し出しています。シャンシャンと音を立てて「動く」馬車は、今ではすっかり水上の名物となっています。温泉街の渓谷風景は、多くの文人墨客に愛され、多くの小説の舞台にもなりました。様々なアウトドアスポーツ拠点として、四季を通じて多くの家族連れが訪れています。また、尾瀬への玄関口としても多くのハイカーが訪れます。温泉街を泉質は、カルシウム-硫酸塩泉。適応症は、切り傷・やけど・慢性消化器病・動脈硬化・慢性皮膚病などです。関越自動車道、上越新幹線の開通で大きく街の姿を変えましたが、バブル崩壊後の新路線として歴史と風景だけでなく、レジャー拠点としての温泉街を形作ってきて、地域活性化の一つの方向性としても注目されています。SLに乗ってレジャースポーツを楽しみに、今年の夏は水上に。

<http://www.minakamionsen.com/>